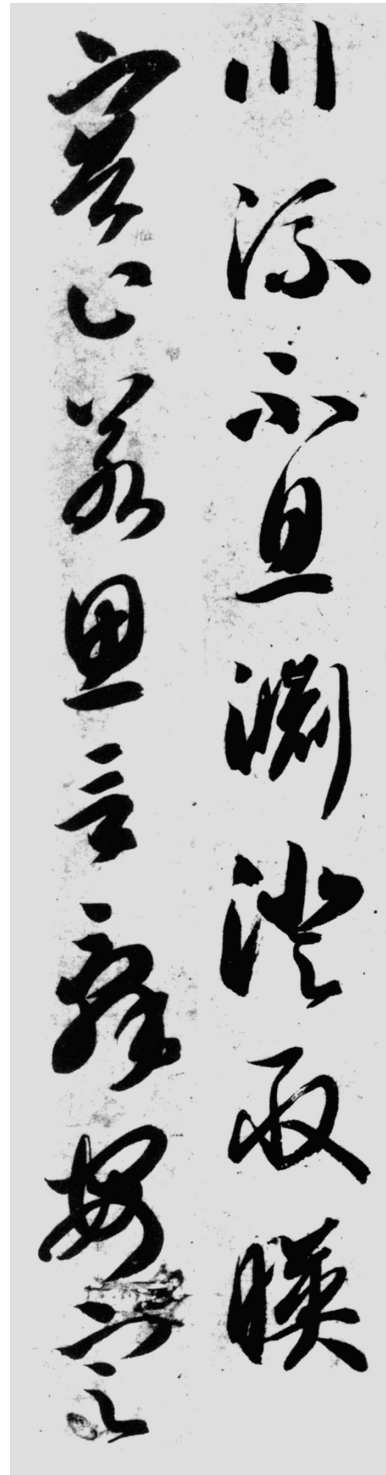
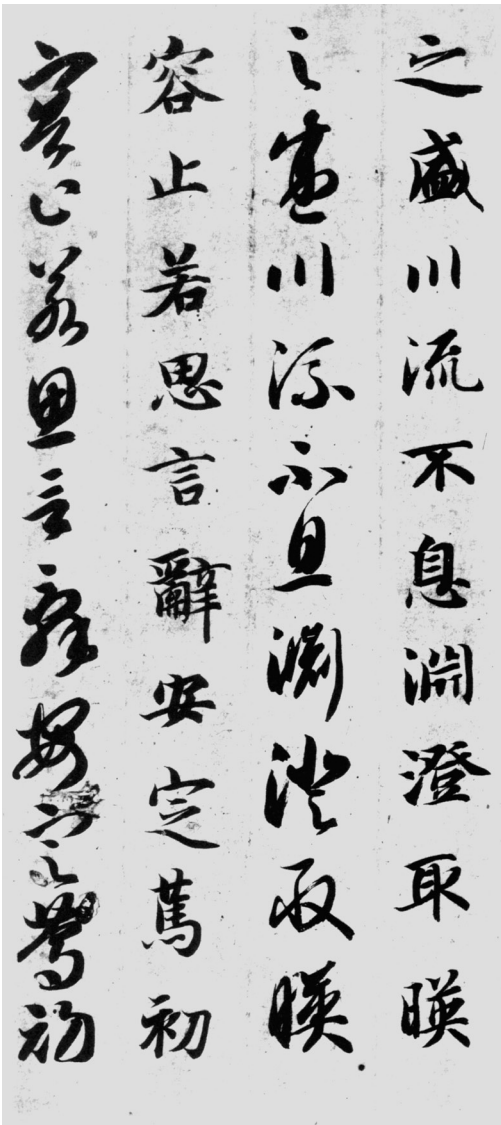


智永 真草千字文



川ハ流レテ息マ不、淵ハ澄ミテ映ヲ取ル。容止ハ思ウガ若ク、言辞ハ安定ニセヨ。

(参考)



条幅臨書部は半紙臨書部と連動しています。半紙に取り組んだ方は是非条幅にもチャレンジしてください。また条幅だけ出品も大歓迎です。

▽字詰め自由。

▽落款は「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。

▽出品料無料。

◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

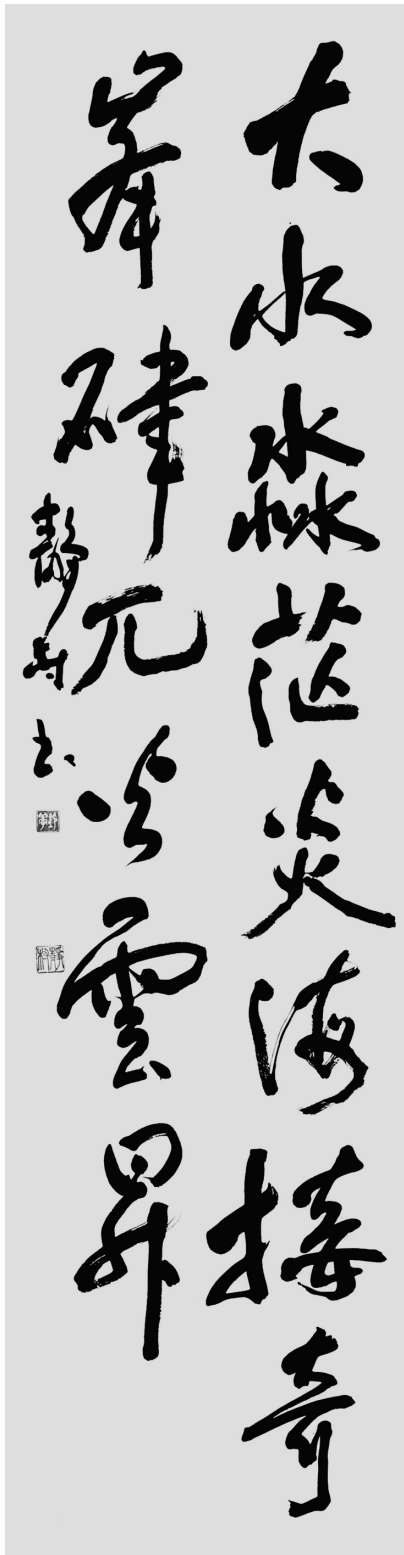
A
高橋香樹主幹書

大水淼茫炎海接 奇峰肆兀火雲昇 (杜甫)
大水 淼びょうぼう 茫ぼうぼう 炎えん 海かい 接つぎ、奇峰きほう 肆し 兀く 火か 雲うん 昇しょう。



B
鈴木静村書

今回は、長鋒羊毫筆を使用。筆の弾力を意識した運筆を心掛けた。その為、渴筆が多くなり、明解に印刷されないかもしれない。「接・峰」は草書なので字典にあまり確認して戴きたい。墨継ぎは「海」と「兀」字形が正方形や長方形にならないようにしたい。



「紅星牌」も湿気を帯びると、味も素々気もなくなる。潤渥の照応等湿気の中に埋没気味。みなさんは何とかこの差異を明確に表現されるよう期待したい。次に「水・淼」「炎・火」の並出は、特に気にかけて、気楽に受け流す気持ちで運筆されたい。参考手本を真似すると失敗が多い。「峰」を「峰・峯」と書いた例は古典に多い。訳：水ははてしもなく広がって夏の海にまでつづき、さまざまな姿をした峰はそびえたち夏の雲がわかおこる。

予告 昇試第一部漢字(九月二十二日締切)

馬上相逢無紙筆

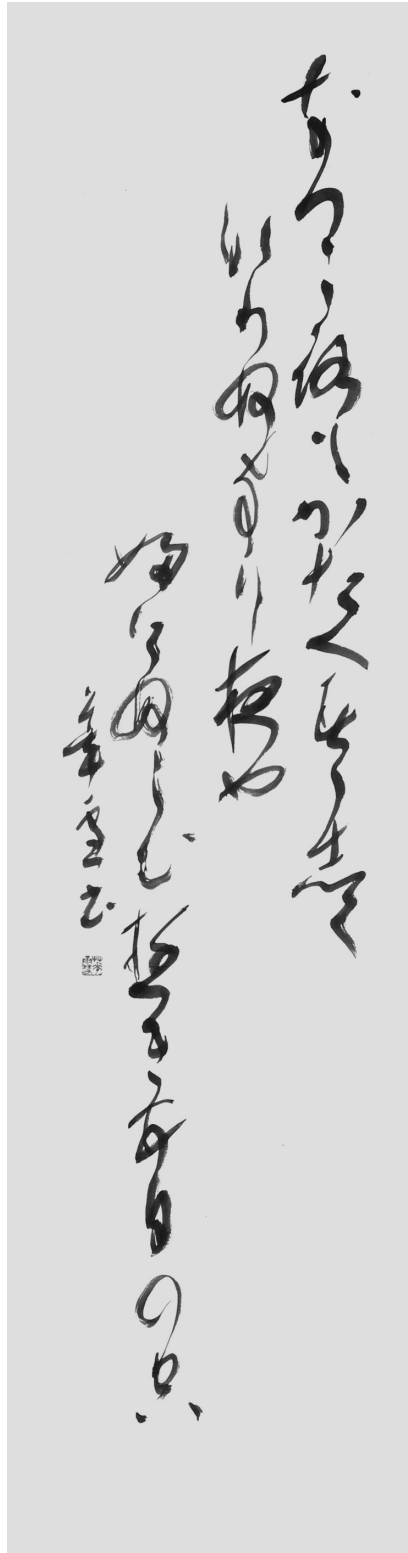
馮君傳語報平安(岑參)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

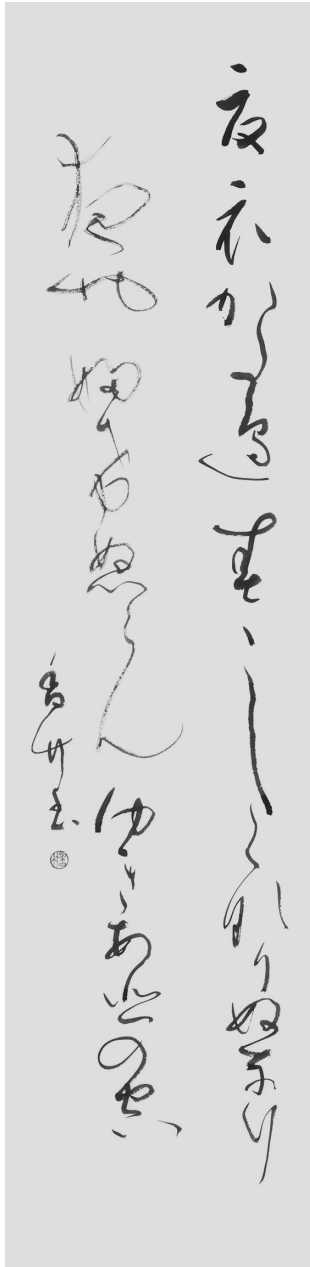
夏衣かたへすゞしくなりぬ夜やふけぬらん行きあひの空(新古今和歌集 前大僧正慈円)
なつこ路もかたへ春、志久那利ぬ奈り夜や婦介ぬらむ遊きあひの空



B

青柳香竹先生書

夏衣か多邊春、し久那りぬ奈り夜や婦希怒らんゆきあ悲の空



学び方

書き出し「夏」「衣」は、間をとった。「か多邊」で字幅を広くし、「し久那りぬ奈り」は、連綿を使い細身に書きました。二行目では、「夜や婦希怒らん」は渴筆で、ゆっくり動き、大きくそして伸びやかに心を心がけました。墨継ぎをして終句へ、ゆらぎも入れ、「空」で少々右に寄せ、おさまりの効果。
連綿は、二字連綿か三字連綿がよいと思います。変体仮名も多用しています。「変体仮名」はくり返し単体で精習して、その上で連綿への習熟も会得し、自分のものにして下さい。和歌を書くには、変体仮名、連綿は大切な要素です。

慈円―歌人、史論家。
一二二五年没、七二才、藤原忠通の六男。
天台座主。大僧正となり、歌をもって、後鳥羽上皇に愛せられた。歌は「千載和歌集」以下に多く採られ、家集「拾玉集」は六家集の一つに数えられ「愚管抄」等の著がある。
「新古今和歌集」には西行(九四首)に次ぐ九二首が採られた。

予告 昇試第一部かな(九月二十二日締切)

秋風にたなびく雲の絶え間よりもれいづる月のかけのさやけさ(新古今和歌集)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

小暮 菘華 先生 書

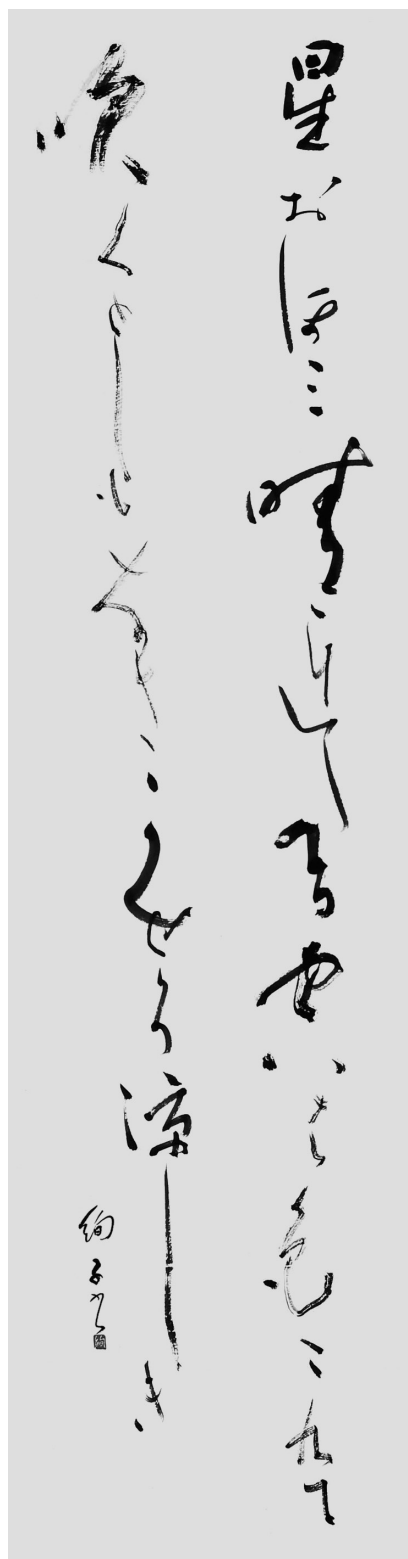
達人大觀眇萬物 烈士壯心懷四方（陸放翁）
 たつじんたいかんばんぶつを びょうと、れつしそうしんしほうを いだく。



訳：物事の理に通達した人は十分に見ぬいて万物を小とする。正剛にして義に勇む士は雄壮な心を有して処々の国へ遠遊する心をいだく。

宮 絢子 先生 書

星多み晴れたる空は色濃くて吹くとしもなき風ぞ涼しき（風雅集 藤原為子）
 ほしおほは 晴れたる空は色濃くて吹くとしもなき風ぞ涼しき
 星おほ三晴連多る空者色こ九て吹久としも奈支可せ曾涼しき



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

鈴木静村書

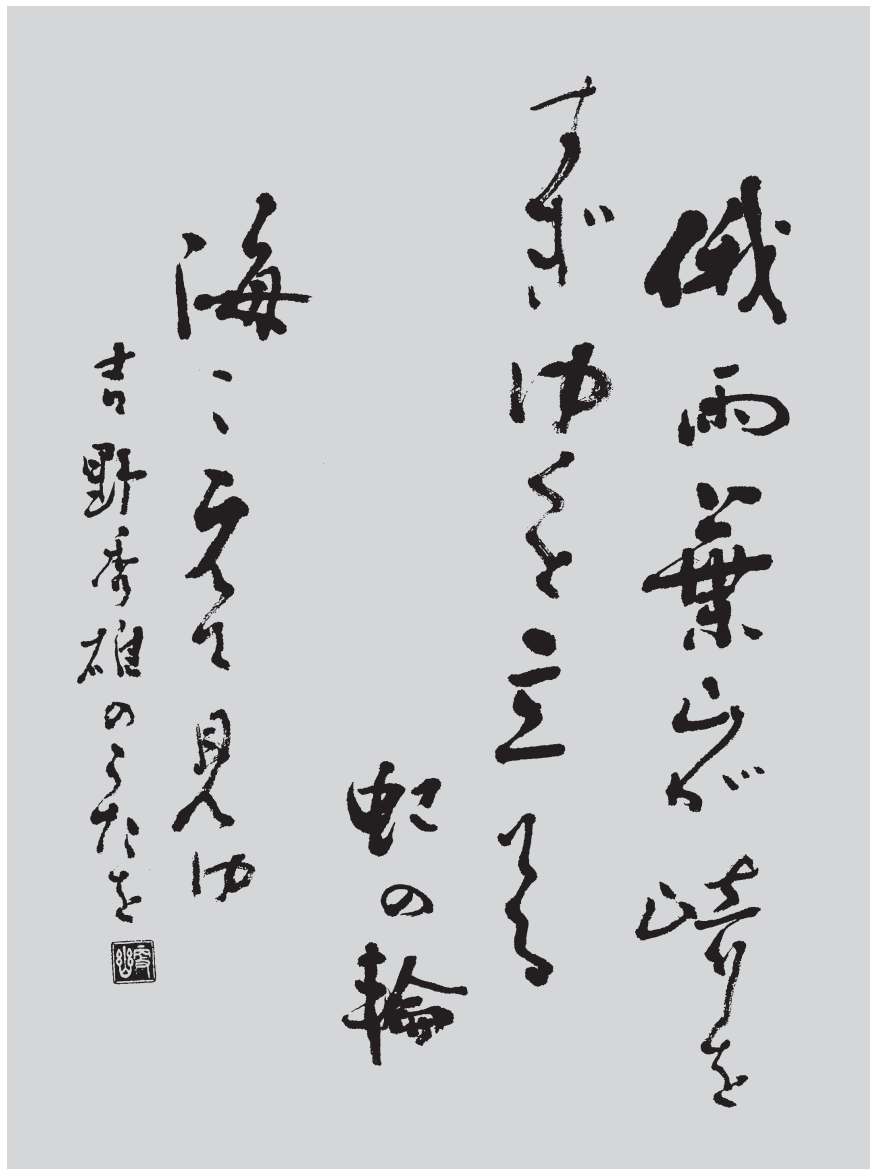
俄雨葉山が崎をすぎゆくと
立てる虹の輪海こえて見ゆ

(吉野秀雄)

吉野秀雄

一九〇二〜一九六七。歌人。群馬県の人。会津八一に学ぶ。良寛・万葉集を研究。歌集「寒蟬集・砂丘」等。

○今のところ「漢字かな交じりの書」には歴史がないので、どれがいいとか、どんな表現の方法があるのか、といったことでは、さっぱり分からないというのが実状。何年後に結果が出るのか楽しみでならない！



右群

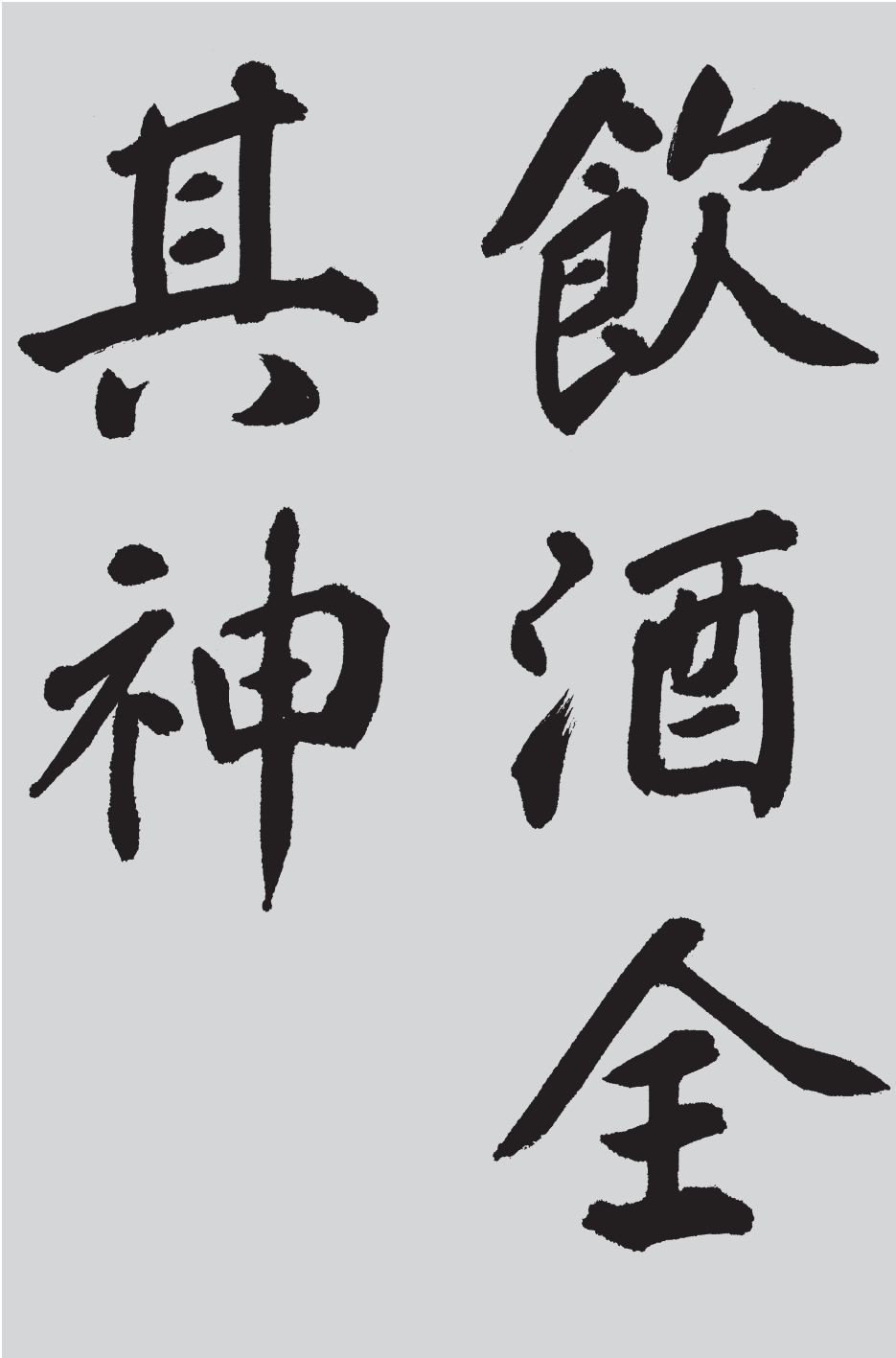
ポイントは二行目。渴筆部「すぎゆくと」と墨継ぎ「立」との潤渇の対比を明確に。

左群

今回より多様な落款の書き方について、順次提示します。書き馴れ深められるよう勧めたい。なお、小雅印を所持されない方は、従来通り「〇〇書」にてどうぞ。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

酒を飲み其の神を全うす(陸游)

訳：酒(百薬の長)を飲みその神(精神)を十分に
たのませる。

〈それぞれの主要点、基礎的な手法、構成について〉
「飲」には「欠」の書き方、「酒」、三水偏、基本ポイント。「全」、左右の払
きりと。「其」長横画と下二点。「神」終わりの縦画が生命、すっ
きりと。「酉」又は「酉」四・五画目と横画の有無に注意の事。

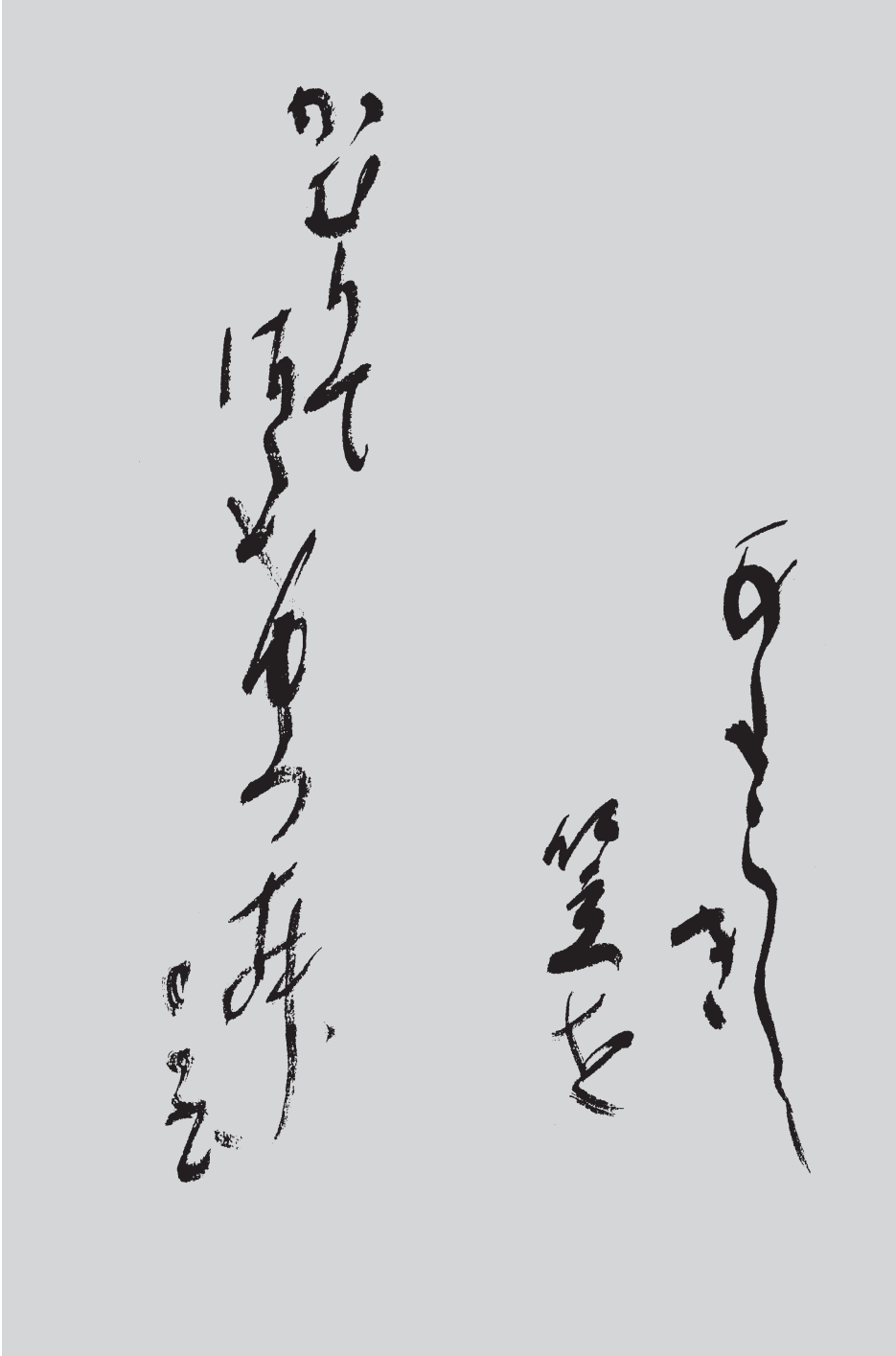
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

新しき笠をかむりてさゝげ摘む(素十)
あ多らしき笠をかむりて佐々希つ舞

〈基礎的習熟を〉
右群の「き」は「あ多らし」に寄せ、さらに「笠を」間をとり一群を構成。
左群は「かむりて」「佐々希つ舞」「落款」を段階的にして縦長く表出。墨継ぎは、「佐」字が効果的。「希」「舞」の右上転回の手法と縦画の伸展用筆を中心に、線の鍛練に意を用いて下さい。



予告 昇試第一部かな(九月二十二日締切)

ひぐらしの声する山の松かげに岩間をくぐる水のすずしさ

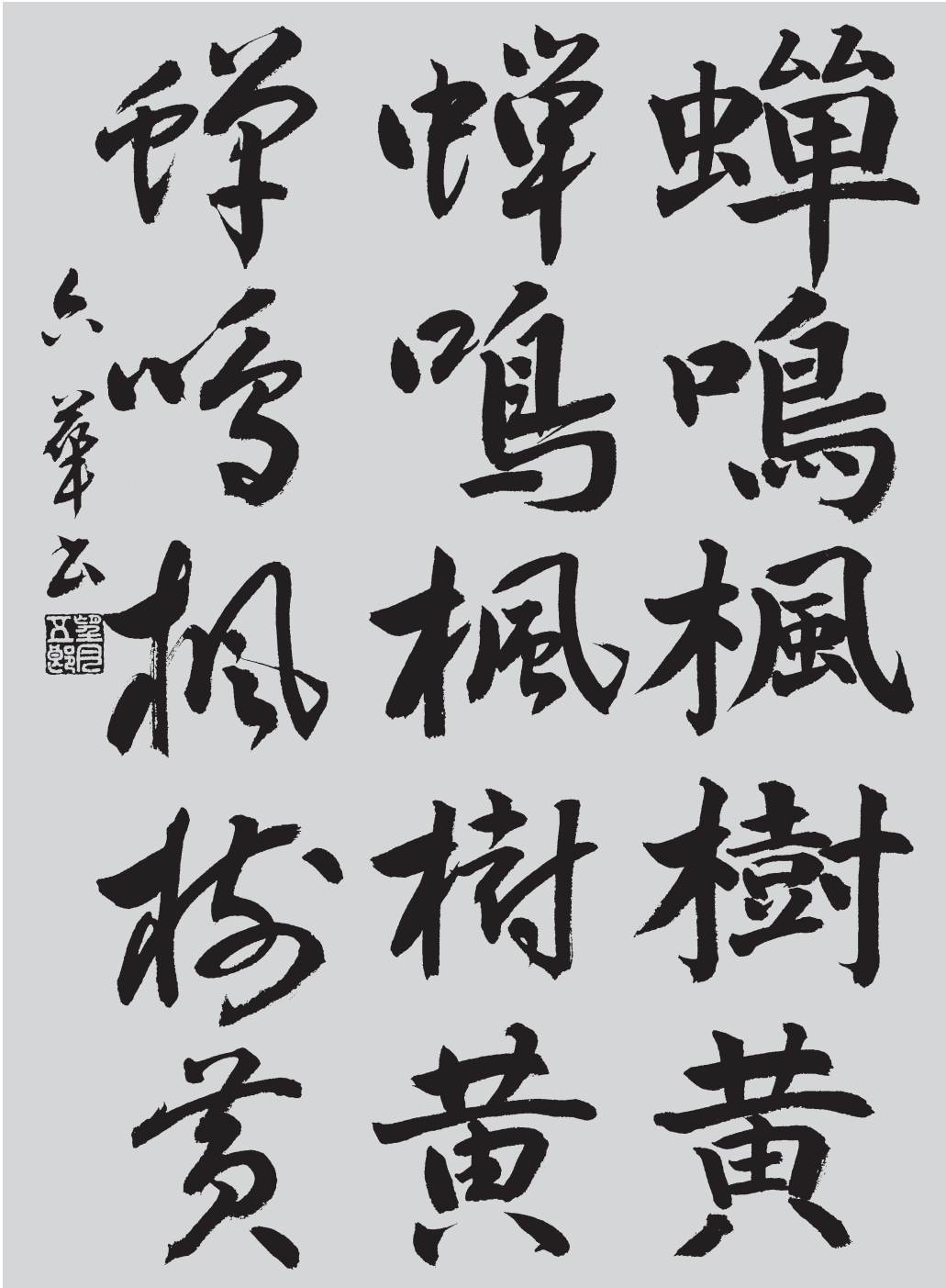
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

望月六華先生書

蟬鳴楓樹黃（元稹）
蟬鳴せみないて楓樹ふうじゆ黄なり。

訳：秋の初めの日暮の景である。



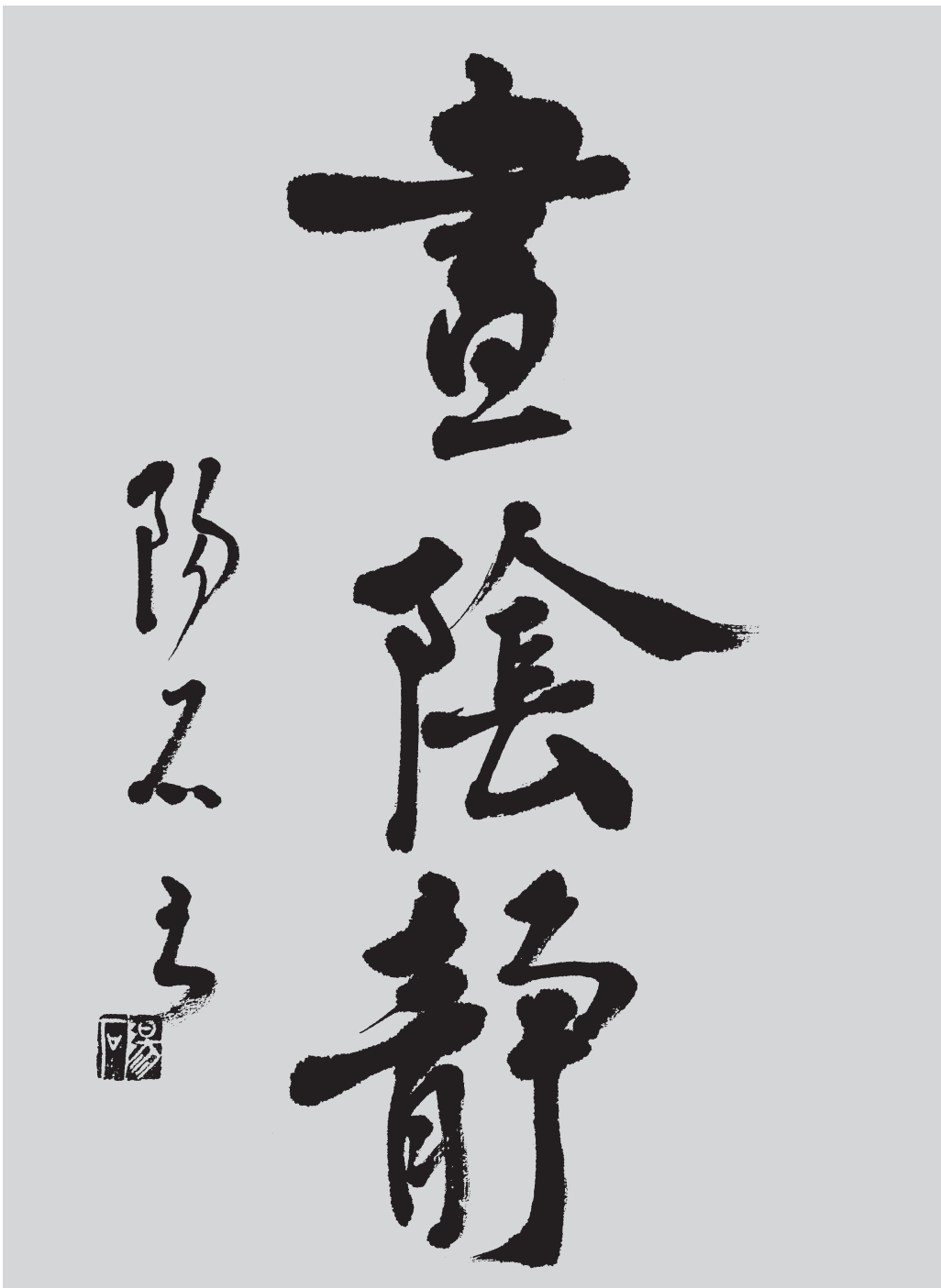
予告 昇試第二部漢字（九月二十二日締切）

墟里上孤煙（王維）

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

難波陽石先生書

晝陰靜（韋應物）
ひるいんせい
昼陰静。

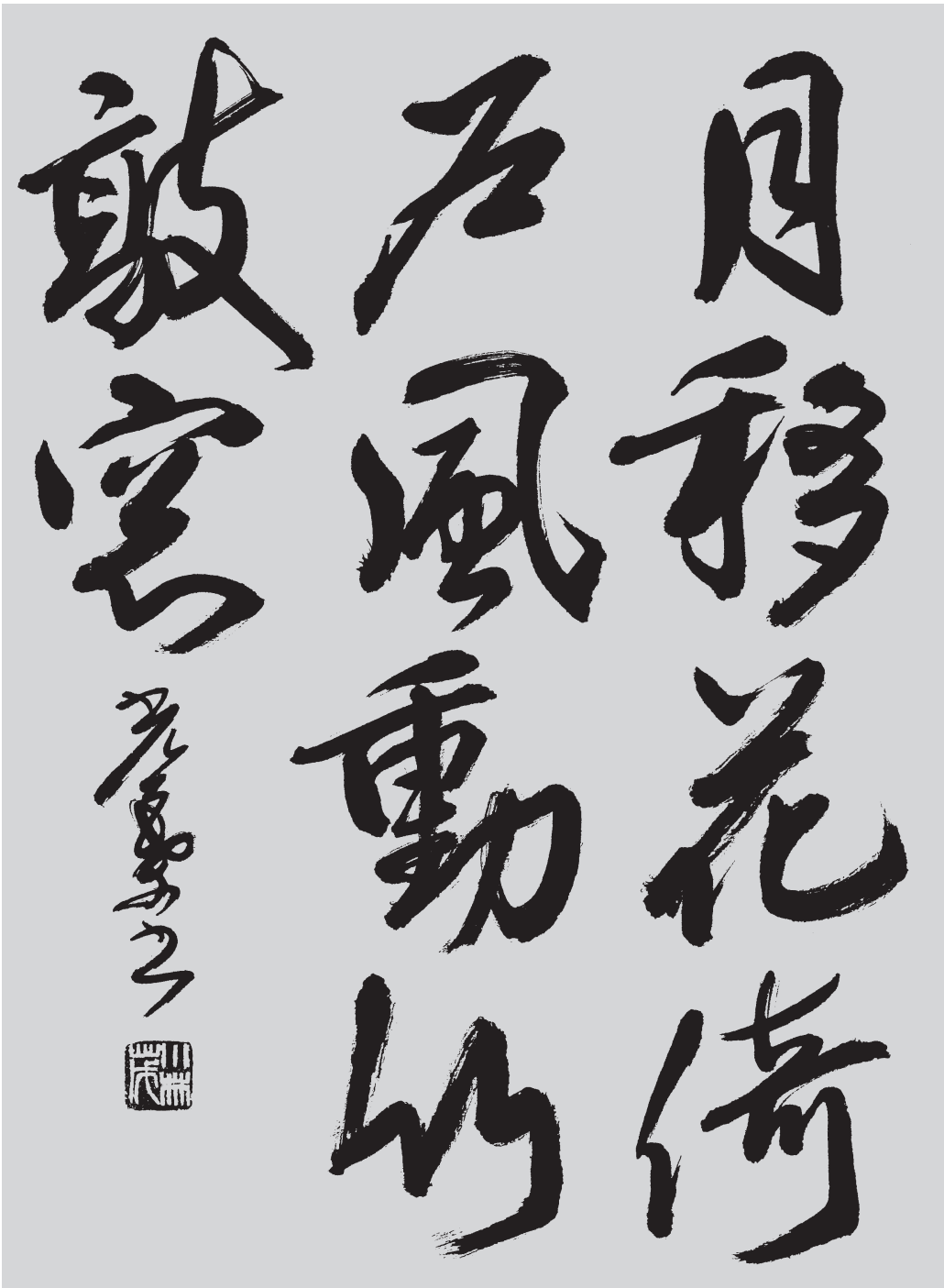


訳：まひるがしずかなること。

◆随意部参考として出品してください。

小林光葉先生書

月移花倚戸 風動竹敲窓（楊鴻達）
月移り花戸に倚り、風動き竹窓を敲く。

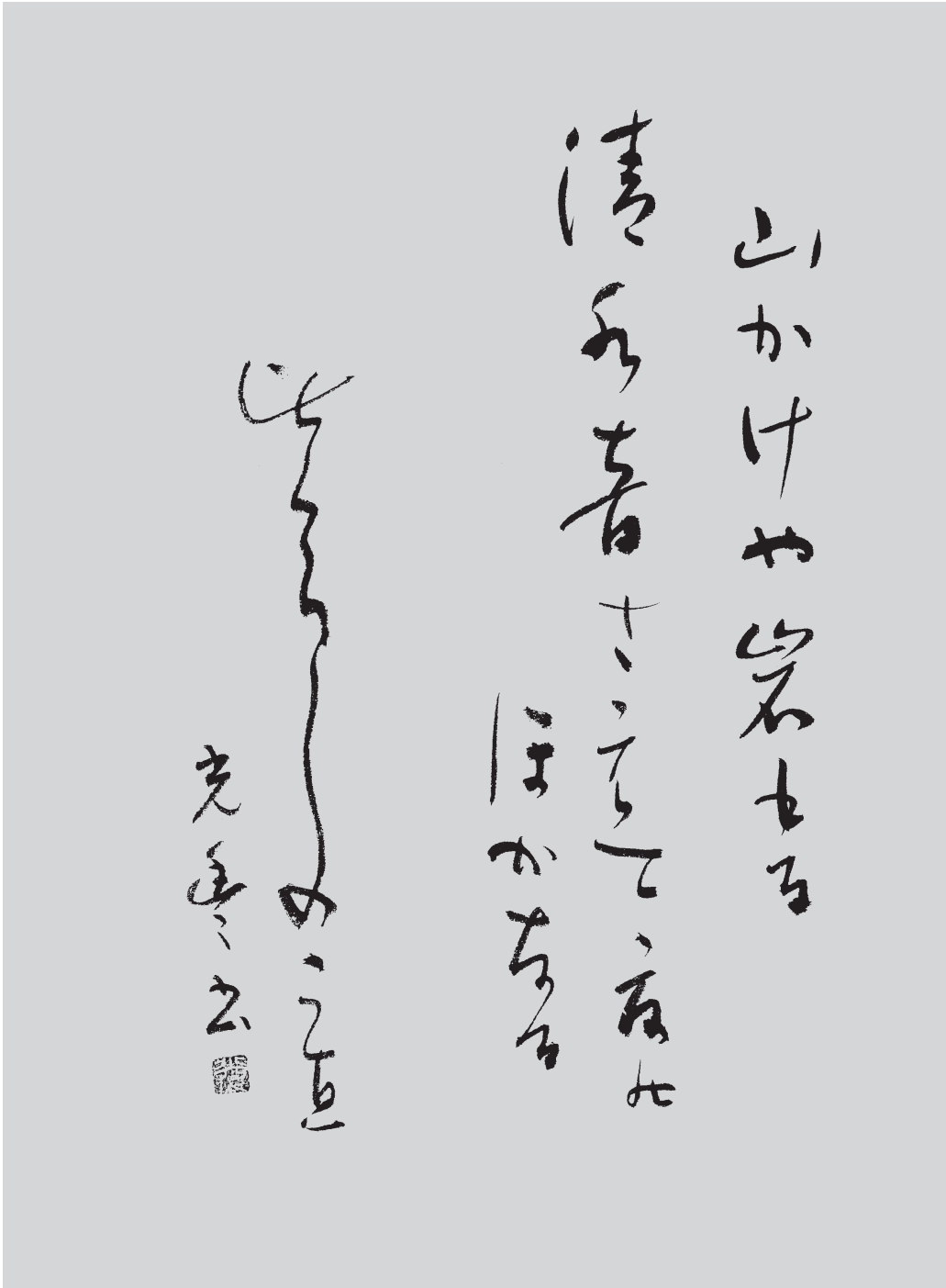


訳：月のめぐり移るに従って花影は戸によりそい、風は吹き動いて竹はばさばさと窓を打つ。

添削又は手本希望者は本会規定により、小林光葉先生（〒234-0052 横浜市港南区笹下7-12-18）に直接お申し込みください。

絹
村
光
豊
先
生
書

山^{やま}かげや岩^{いは}もる清水^{しみづ}おとさえて夏^{なつ}のほかなるひぐらしの声^{こゑ}（千載和歌集 慈円）
山^{やま}かげや岩^{いは}もる清水^{しみづ}音^ねさえて夏^{なつ}能^のほか奈^なる比^ひくらしのこ恵^{あま}



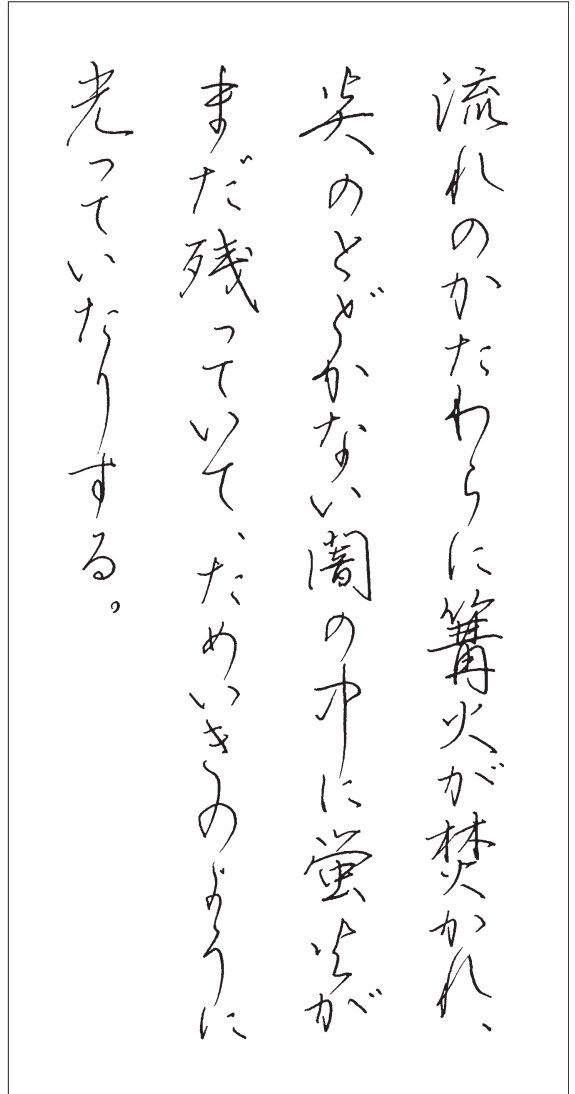
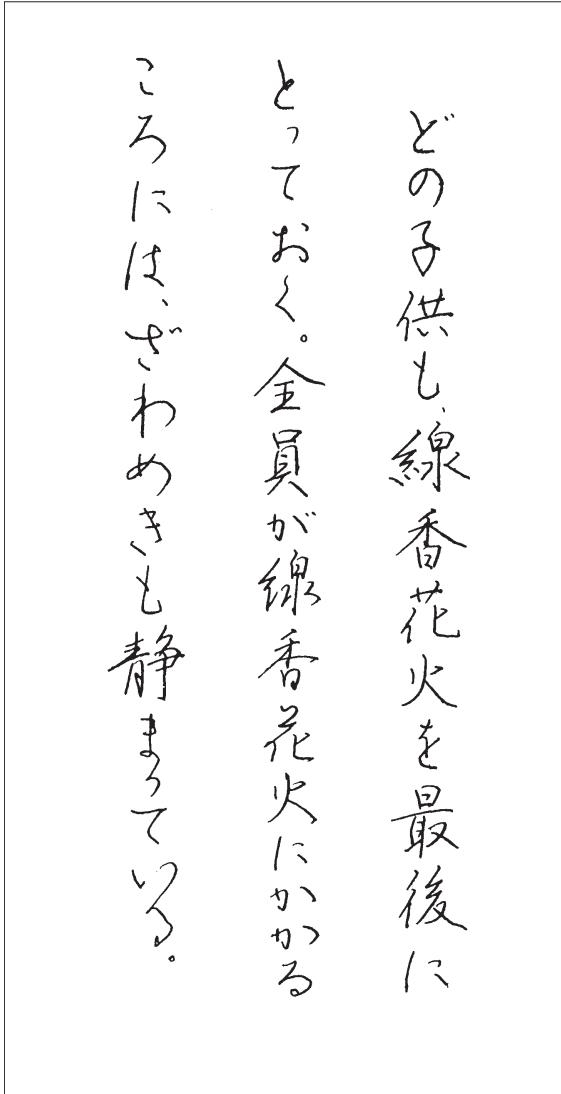
添削又は手本希望者は本会規定により、絹村光豊先生（〒144-0045 大田区南六郷2-35-2-906号）に直接お申し込みください。

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

流れのかたわらに篝火かがりびが焚かれ、 炎のどかない闇の中に螢火ほたるびがまだ残っていて、ためいきのように光っていたりする。

「寂聴と巡る京都」瀬戸内寂聴

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (5) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。

課題1 六〇〇円
課題2 三〇〇円

課題1 路川千曄先生 ㊦二〇七〇二三

東大和市向原五ノ一〇九一ノ四

課題2 湯澤春翠先生 ㊦三七一〇〇二六

前橋市城東町一―二九一五

課題2 (初段階以下)

どの子供も、線香花火を最後にとっておく。全員が線香花火にかかるころには、ざわめきも静まっている。

「あるようなないような」川上弘美